

Tsukuba Startup Night 2025 プログラム

※諸事情により登壇者が変更なる場合があります

背景と狙い

我が国随一のアカデミアである筑波研究学園都市を抱えるつくば市では、2017年から研究シーズの事業化支援のひとつとして「スタートアップ支援」を実施し、社会課題の解決や地域経済の活性化に向けて進んでいます。その背景として、筑波大や産総研、NIMSなどの国の研究機関においても事業化支援が進んでおり、アカデミア側と支援機関（産業界）側とのコネクトが求められ始めてきたところがある。そのような中で、海外のスタートアップ集積地に見られるアカデミア、支援機関、行政を有機的に繋がっている「エコシステム」の構築に動き出した。2020年に「つくばスタートアップ・エコシステム・コンソーシアム」を設立し、研究開発型スタートアップの創出や成長支援について、連携を開始した。

また、つくばの研究成果は海外でも注目され、つくば市では2019年に米国CIC、2022年にルクセンブルクLUXINNOVATION、2024年にはシンガポールJSIP、そして2025年にはドイツ・ボーフム市との連携を開始した。民間企業ではアステラス製薬・三井不動産・米国Biolabsが連携し、つくば・柏の葉エリアでライフサイエンス・エコシステムの発展に向けて動き出し、物流のグローバル企業であるプロロジスがスタートアップの成長を自社の成長に取り込んでいる。オリエンタル技研工業は自社施設をリノベーションし、バイオ系実験機能が付いたイノベーション拠点としてスタートアップ支援に貢献している。

このようにスタートアップ支援におけるエコシステムの土台ができつつある中、つくば市役所が担うスタートアップ支援における役割は「エコシステムにおけるコーディネーション機能」と「挑戦者の応援」である。これほど研究成果/研修者の密度を持つ都市は他にはない。イノベーションの創出を支えるためのスタートアップ支援として、つくば市役所にかかる期待は大きい。

その際、多様な研究シーズの活用において大きなポイントとなるのが高速演算処理機能を持つ「AI」である。2022年11月にChatGPTが登場しAIの民主化が急速に進んだ中、ディープテック・スタートアップにおいてもプロダクトやサービスにAIを活用することが多くなってきており、そのスピードは凄まじく早い。そのような中、AI活用が主流となるテクノロジーの社会実装において、その信頼性や安全性をどのように社会へ落とし込んでいくかが自治体としての役割ではないだろうか。

今回のTsukuba Startup Night 2025は、「AIと都市と人がつくるTSUKUBAのスタートアップ・エコシステム」をテーマに、スタートアップが社会実装する際の行政支援としてへの示唆、スタートアップ側から見たつくばへの期待などについてAIをベースにディスカッションし、次の一步へつなげていくとともに、イノベーションへの挑戦に向けて一緒に歩む旅の仲間を見つける“場”として開催する。

日時	2025年12月11日（木）4:00pm-9:00pm
場所	CIC Tokyo（東京都港区虎ノ門1丁目17番1号 虎ノ門ヒルズビジネスタワー15F）／オンライン同時配信
テーマ	「AIと都市と人がつくるTSUKUBAのスタートアップ・エコシステム」
プログラム	
4:00pm - 4:30pm	<TSUKUBA STARTUP NIGHT 2025の楽しみ方> (JP, EN) 小村 隆祐 (Venture Café Tokyo Executive Director)
4:30pm - 4:35pm	<来賓挨拶> (JP) 横井 一仁（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）イノベーション戦略センター デジタルユニット ユニット長）
4:35pm - 4:45pm	<つくばスタートアップ・エコシステムの進化> (JP) 屋代 知行（つくば市 政策イノベーション部スタートアップ推進室 室長）
4:55pm - 5:45pm	<【基調講演】AIの進化と社会の受容> (JP) 栗原 聰（一般社団法人人工知能学会 会長/慶應義塾大学理工学部 教授） 【狙い】 スタートアップや一般企業においてAIを活用した事業モデルは急速に広まりつつある。また、スタートアップ支援を行う地方自治体として、その帰結は市民生活への価値の提供にある。そのような中、「AIへの信頼」「AIを正しく理解する」という点においては自治体としての役割が大きいと考える。そして「AIスケール化のシレンマ」にするとおり、スタートアップにとってもこの点を理解することがその後のビジネスモデルに大きく影響すると考える。 そこで、人工知能学会の栗原会長をお招きし、上記の点についての基調講演を実施し、サービスを提供する側（スタートアップ）と受けける側（市民・自治体）の理解度を深める。
5:55pm - 6:45pm	<産業界にAIがもたらす競争優位性 -スタートアップへの示唆- > (JP) 樋口 翔太（株式会社Closer 代表取締役CEO 仲田 真輝（NeuralX, inc Founder&CEO/合同会社NeuralX 代表社員 シャー バビック（VeBuIn株式会社 代表取締役社長） 谷本 有香（Forbes JAPAN Web編集部 編集長）<モデレーター> 【狙い】 2024年のノーベル物理学賞及び化学賞の受賞者はAI研究者であった。サイエンスにおいてAIは欠かせないものとして機能が拡張しつつある中、ChatGPTの登場によりAIの民主化は爆速で世界中に広まった。そして近い将来、AIは都市や社会に浸透し、より身近にパーソナルなものとして存続しているかも知れない。 このセッションでは、AIを活用したディープテック・スタートアップの事業概要と今後の事業展開を踏まえながら、AI（数学やコンピューター）がタスクの自動化を超えてChatGPT Pulseのように社会性/人間性を持ったエージェントとなる未来を見据えたプロダクトやサービスをどのように開発していくべきなのか、各産業界でAIを駆使してサービスを提供する事例をベースに議論する。
6:55pm - 7:45pm	<競争環境を支えるプラットフォーマーとしてのスタートアップへ> (JP) 鍋島 厚太（株式会社Octa Robotics 代表取締役） 濱川 聰（産業技術総合研究所 上級執行役員/研究戦略本部 本部長代理） 國土 晋吾（一般社団法人TXアントレプレナーパートナーズ 代表理事） 屋代 知行（つくば市 政策イノベーション部スタートアップ推進室 室長）<モデレーター> 【狙い】 成長には時間と資金が多大に費やされるディープテック・スタートアップにおいて、大きな可能性を秘めるひとつのビジネスモデルとしてApple社の事例をはじめとした「プラットフォーム戦略」がある。そこには単なる技術開発のみならず国際標準化戦略などの規格競争/ルール形成でも戦っていく必要がある。 このセッションでは、つくばでマルチベンダー型インターフェースサービス「LCI」を独自開発するOcta Robotics、鉱工業の科学技術に関する知的財産や技術シーズからのスタートアップ創出による社会実装を加速させている産総研、長年ディープテック・スタートアップ支援を担ってきたTXアントレプレナーパートナーズにより、プラットフォーマーとしてのディープテック・スタートアップが世界に変革をもたらす可能性やイノベーションの外部性への期待について議論する。
7:55pm - 8:55pm	<ハードとソフトが融合する都市 -自動運転の社会実装から学ぶ都市のアップデート-> (JP) 加藤 真平（株式会社ティアフォー 代表取締役 執行役員 CEO） 嶋南 達貴（scheme verge株式会社 代表取締役CEO） 谷口 紗子（筑波大学 システム情報系社会工学域 教授） 五十嵐 立青（つくば市長）<モデレーター> 【狙い】 つくばスーパーサイエンスティック構想では、自動運転の社会実装にも取り組んでいる。社会実装するためのブレークスルーには技術面、マネタイズ面のほかに社会の受容性が重要となる。そして、産学官がそれぞれの役割を果たし、まちづくりの「プラットフォーム」として国内外に展開していくことは、参画するスタートアップへの支援にもつながっていく。 このセッションでは、つくばでスーパーサイエンスティック構想の旗振り役のつくば市長、自動運転のオープンソースを提供するティアフォー、データ駆動型エリアマネジメントを提供するscheme verge株式会社、都市計画に心理学を応用した研究を進める筑波大学の谷口氏を交えて、ハード整備からソフト整備へと移り変わっていく都市において、社会実装していくために必要な戦略を議論する。
8:55pm - 9:00pm	<クロージングトーク> (JP) 五十嵐 立青（つくば市長）
会場内	パネル展示（予定） 株式会社Closer、合同会社NeuralX、VeBuIn株式会社、株式会社ティアフォー、scheme verge株式会社 IMAGINE THE FUTURE. Forum, Xis WORKSITE, SakuLab-Tsukuba, inno-base TSUKUBA